

平成19年度鳴門市社会貢献活動講演会が開催されました



猪子先生の講演



講演会会場

鳴門市の主催による平成19年度鳴門市社会貢献活動講演会が11月13日に開催されました。吉田忠志鳴門市長のあいさつに続いて猪子和幸先生が「チャレンジドの社会参加と就業に向けて」と題した講演をされ、会場の鳴門市老人福祉センターに詰めかけた参加者は熱心に耳を傾けました。

講師の猪子先生は平成11年3月に高等学校教員を定年退職されると直ちにJCIテレワーカーズネットワークを創設され、特定非営利活動促進法（NPO法）の施行に伴い、従来の任意団体からNPO法人へと組織変更を行い、引き続き代表理事として精力的に活動をされています。

JCIテレワーカーズネットワークは創立以来一貫して、障害者や高齢者などの社会的弱者の自立支援を目的とした活動を続けてこられました。その活動の基本となる考え方は、これまで社会的弱者といわれてきた人たちは、ただ援助を与えられるだけの存在だと思われてきたが、本当はそうではない。彼らには彼らにしかできないことがある。それだけの能力を持っている人たちである、というものです。そのことを言い表しているのが、講演のテーマに使われている「チャレンジド」という言葉です。従来の障害者という表現は、彼らのそういう能力を無視している、単に言葉の言い換えではなく、彼らは正にチャレンジドなのだ。「私は、障害者でもこれぐらいの仕事はできるだろう。これぐらいの料金でいいだろう、などという考えで発注してくる仕事は受けない。彼らにしかできない仕事でないとやらない」講演の中で話されたこの言葉のなかに、日々の現場での実践によって積み重ねられた彼らの自信と自負が詰まっています。

講演の中で先生が強調されていたもう一つのポイントは、NPOとして自立することの重要性です。経営マネジメントの重要性という言い方をしてもいいでしょう。経営という言葉に拒否反応を示すNPO関係者も少なくありませんが、組織を継続的に存立させるためには経営マネジメントは不可欠です。猪子先生は教員時代に商業簿記も教えておられたそうなので、会計の重要性はよくお分かりになっておられると思います。しかし、それだけではない。お話の中から、常に新たな事業機会を模索しておられる様子が伝わってきます。宅配便業者との事業連携、横断幕作成受注のための設備投資等、どれも事業リスクが伴うはずですが、そこをきちんと冷静にマネジメントされて事業を軌道に乗せておられる。そのことが、チャレンジドが自分たちの能力を発揮できる場の創造へと繋がっていく様子がよくわかりました。

福祉施設でのボランティア活動のすすめ

春潮アクティベート・サークル代表
細川 龍繁

本格的な高齢社会を迎え、高齢者の健康・生きがいづくり、そしてそれにつながるレクリエーションは、これまで以上に見直されてきています。

私が長い間、レクリエーション活動で関係してきた特別養護老人ホーム春潮苑には、現在29名のボランティアの方が、福祉レクリエーション・サービスをするために毎月1回訪問をして、熱心に活動を続けています。

春潮苑を最も早く訪問するようになったのは、「生け花」の指導をする徳島市、小松島市の女性4名で、平成元年より訪問を始めました。平成6年には、「詩吟」の人と、福祉レクリエーション・ゲーム専門の私と2名、更に、平成9年に「音楽療法」に関する専門技法を持つ2名の女性と男性、同じ年に、「短歌」の女性が1名、平成11年には「貼り絵」の堪能家、平成15年にはハーモニカの方が8名、平成16年には大正琴の方が11名加わり、総計30名の方が春潮苑を訪問することになったのです。その後、少し変動はありましたが毎月1回、熱心に活動されています。

私は、この活動が施設の利用者の心と体の活性化の上で大きな成果を挙げているであろうと確信しています。



大正琴のボランティア活動

この春潮苑のように福祉施設の「社会化」が進み、他の施設にも、利用者の心と体の健康を進めることを目的とするボランティアの方が、沢山出現することは大変良いことだと思っています。

福祉施設でのボランティアの活動の目的は、利用者の「心身の活性化」を図ることですが、もう一つ、活動する本人にとっては「豊かな自己実現の喜びを体感することがある」と体験者からよく聞きます。

福祉施設にボランティアの方が増えることを切に期待しています。

「チャリティーバザー」にご協力ありがとうございました

NPO法人「ふくろうの森」広報担当 野村 幸子

11月3日(祝)、鳴門市立図書館にて「ふくろうの森」主催で「図書館に本を贈るためのチャリティーバザー」を開催しました。5回目を迎えた今回、晴天にも恵まれ、たくさんの方々にご来場頂き、スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

バザーでは、野菜や日用品、草木染めや手作り品、花の苗の販売のほか、ポップコーンやスーパーボールすくい、脳トレ、リサイクルサロン、どんぐりや折り紙の遊びのコーナー、本のリサイクル市などでにぎわいました。

このチャリティーバザーは、年々、市立図書館の本の予算が削減されている現状の中、一冊でも多くの本を増やしたい!との願いから生まれました。数々の失敗を繰り返しながら、各団体や個人の方々の暖かいご支援ご協力のもと、無事5回目を開催できましたことを心より感謝申し上げます。

これまでに、赤ちゃん絵本や大型絵本などの児童書、バリアフリー絵本や点訳絵本(点訳サークルの方のご協力を得て、市販の絵本に点訳シートを貼ったもの)を計334冊。このほか、痛んでいた紙芝居ケース310枚や1Fロビー展示用パネル3枚、大型絵本ブックスタンド2台を寄贈することができました。小さな積み重ねが少しずつ実を結び始めたことに幸せを感じています。

バザーアンケートには「品物や本の数を増やして」などの要望のほか、「楽しかった」「来年

も楽しみ」との声がたくさんありました。また、「初めて図書館へ来ました」という声も聞かれ、バザーが図書館へ足を運びきっかけになっていることに気づきました。これらの声を励みにまた来年もみんなで頑張りたいと思います。

さて、今回の寄贈する児童書について、現在、図書館司書の方々と本の選定を進めています。準備が出来次第、寄贈させていただきますので、もうしばらくお待ちください。

寄贈本がたくさんのお子たちに大切に読みつがれていくことを祈りつつ、今回の報告を終わりたいと思います。ありがとうございました。



チャリティーバザー

ばんどう門前通りを創る

板東地区自治振興会 会長 林 宏明

2006年8月に板東駅から靈山寺(一番さん)までの約900メートルの通りを整備し、衰退しつつある商店街を賑わいのある町並みにしようと、NPO法人『まちづくりサークル大麻』・板東地区自治振興会が連携をしてまちづくり協議会を設立しました。

以来、話し合いを続けながらイベントや通りの名称を全国的に募集し、板東の人たちはもとより市外、県外の人たちに知ってもらえるよう配慮しました。

通りの名称については、応募者は31通あり、遠くは川崎市から1通、市外から6通ありました。ほとんどは板東在住の人たちでした。審査の結果『ばんどう門前通り』が選ばれました。

イベントについては、今年3月21日から板東駅舎内の上部壁面に山田準一氏が描いた四国八十八ヶ寺の絵画(1寺ごと)を徳島県23ヶ寺から始め、つづいて高知県(16ヶ寺)、愛媛県(26ヶ寺)、香川県(23ヶ寺)の順で2ヵ月おきに展示しました。

4月1日には、阿部善信先生による大正琴コンサートを開催し、鳴門市の人たちや板東駅に降りてくる人たちが参加してくれました。また、参加された人たちやお遍路さんに鳴門金時の蒸かし芋でおもてなしをしました。

徳島県では、本年「おどる国文祭」と題して第22回国民文化祭が開催され、県下各地で徳島のすばらしい文化を全国に発信しました。



門前通り

板東地区自治振興会では、その国文祭に合わせて10月27日から11月4日まで『一店(一戸)一美コンクール』を開催しました。通り沿いの民家29戸が参加して、店先や軒先に手作りの工芸品、絵画(日本画、洋画)彫刻、パッチワーク、ガーデニング、花壇、鉢植え、お遍路さん人形などの作品が出品されました。期間中は、多くの観光客や市民の方が訪れ、感動される場面もありました。

今後、私たちは『おもてなし』の心で、このばんどう門前通りを活性化し、賑わいのあるまちづくりに努力したいと考えています。

鳴門の宝「第九」も踊った国文祭

NPO 鳴門第九を歌う会 浅野 里江

第22回国民文化祭・とくしま2007(おどる国文祭)「第九」フェスティバルが、鳴門市文化会館で開かれた。県内外の合唱団22団に加えて、鳴門市の姉妹都市リユネブルグ市の聖ヨハンニス教会合唱団20名が花を添えてくださり、総勢460人の大合唱団が第九初演の地での感動の「歓喜の大合唱」で満席の観客を魅了した。

阿波文化を代表する「阿波藍」「阿波踊り」「人形浄瑠璃」「第九」が四大モチーフになった今回の国文祭。26回続いた「鳴門の第九」が、国文祭を契機に、更に広く徳島・鳴門の大切な宝物として、県民や参加者の心に響く歌声となるように、「第九」を支える裏方として全力をあげて協力したいとの思いで、ボランティアに参加した。

ボランティアは総勢88名。鳴門第九事務局スタッフ10名と、国文祭でも第九を歌いたいと願いながら、残念にも抽選もれで参加できなかった方の中から16名、「童謡を歌う会浜千鳥」などの第九賛助会員26名、そして鳴門高校吹奏楽部36名も含めて、88名が、快く裏方として協力してくださり、2日間は、揃いのピンクの上着のボランティアが文化会館中を駆けて、汗を流した。また、晴の舞台に立つ鳴門会員も練習の合間をぬって、積極的に手伝ってくださり、まさに、総力をあげてのお接待が実現した。



文化会館

日々変わる出演者の座席表作成に始まって、資料袋詰め・会場準備・受付・会場案内・花束・扉係・弁当配布と片付け・飲物サービス・指揮者等接待・交流会準備・最後の整理片付け...

今まで長年にわたって、400名近い県外からの参加者を迎えて「鳴門第九」を運営してきたノウハウをフルに駆使し「温かい笑顔で遠来のお客様をお迎えしよう」を合言葉に皆さん頑張ってくださいました。「とても細やかに気配りして頂き、本当に楽しい2日間でした。...」「...来年は、鳴門に負けられないよう他県からのお客様をおもてなししたい」など続々届くお礼状を、協力して下さったすべての皆さんに感謝の気持ちと共にお届けしたい。

美しい鳴門で、トレッキングを愉しもう

NPO 法人 OH! ならと 代表 神田真奈美

夜、ご夫婦やご近所の仲間と歩いておられる姿をよく見かけます。健康のためにも、とても大切なことだと思います。毎日同じルート、同じ時間歩いていても、「新しいお店ができたな」とか、「今日はお月さんが綺麗」「この公園の花、かわいい」など、いろいろ発見や小さな感動があると思います。実は、これこそ、トレッキングなんです。

トレッキングが日本でも取り上げられるようになったのは、今から20年くらい前でしょうか。マウンテンバイクが都会を颯爽と駆け抜け始めたころ……。休日にゆっくりと、ぶらぶら歩いたり、自転車にまたがったりして、いつもの町並みや自然を旅してみようじゃないか、といったものでした。本来、trekking というのは、「散歩」のような感覚のもので、現在のような「山歩き」のような、登山に近いスポーツとしての認識は、あまりありませんでした。実際、私が学生時代に使っていた辞書には「trekking= (ゆっくり、または苦労して) 旅行すること、前進すること」とあります。この「苦労して」というのは、「せっかくの旅行なのだから、なんでもないことでも、じっくり観察して関わってみよう」とでも言い換えれば、納得かもしれません。トレッキングでは「もくもくと歩くこと」が目的ではなく、感動したり、発見したりする楽しみが目的なのです。

今では、アウトドア用品メーカーが、自然となじむスタイリッシュなトレッキング・ウェアを開発し、暑い・寒いにも機能面で対応した快適性の高いものが増えました。スキーのストックのようなものを持ち、膝への負担を軽減するノルディックウォークも徐々に日本でも普及。各地でウォーキングなどのガイドサービスも増えてきました。トレッキング・ワールドはますます広がっています。

ところで、鳴門も車での移動が主で、すぐそばのコンビニへも車でという方も多いですね。そこで、日常の1km以内の移動は、歩きや自転車にしませんか？街角の香りや八百屋やお肉屋さんの笑顔に癒されたり、行き詰まっている仕事も歩くことで頭が整理でき、1歩前進できるヒントが見つかったり。これは、立派なトレッキングの効用ですね。

私たちOH! ならとが毎週日曜に行っているウォーキングは、実は、そういったちょっとした日常の散策の舞台を、島田島や大毛島、大麻など、すぐ近くにあるフィールドに求めたものです。落ち葉が降り積もり、膝にもやさしい木立の中を往く四国のみち、ほとんど車が通らない田園風景を貫く美しい青空の道、そして瀬戸内を見下ろす絶景ポイント……。ほとんどの方が「こんな素敵な場所が鳴門にあったなんて、知らなかった」と、おっしゃられます。そして何より、感動や発見は脳も活性化し、内面から若さがわいてきます。

次の日曜、デジカメ片手に、トレッキングしにきませんか？自然派のOH! ならとウォーキングガイドがご案内します。



OH! ならと 定例ウォーキング 毎週日曜 シーカヤックショップホライズン前9時集合
(2時間程度歩きます) 詳しくは・・・<http://ohnaruto.com/> (鳴門町土佐泊浦字黒山)

行事のお知らせ



子どもマジック教室 「マジックショー」

～笑いと思議の60分～

【と き】 12月8日(土)
10:30~11:30

【と ころ】 鳴門市立図書館 3F

【出 演】 徳島マジッククラブのみなさん

【入 場 料】 無料(申し込み不要)

「阿波の女性史」 ～日本の建国は阿波の女性から～

NPO法人「ふくろうの森」

【と き】 平成20年1月19日(土)
13:30~15:30

【と ころ】 鳴門市立図書館 2F

【講 師】 後藤田 みどり さん
(「阿波の歴史を小説にする会」会員)

【対 象】 一般

【参加費】 100円(当日集金)
なるべく事前申し込みのこと
(当日OK)

【申込み先】 「ふくろうの森」

☎・FAX 686-0389